



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

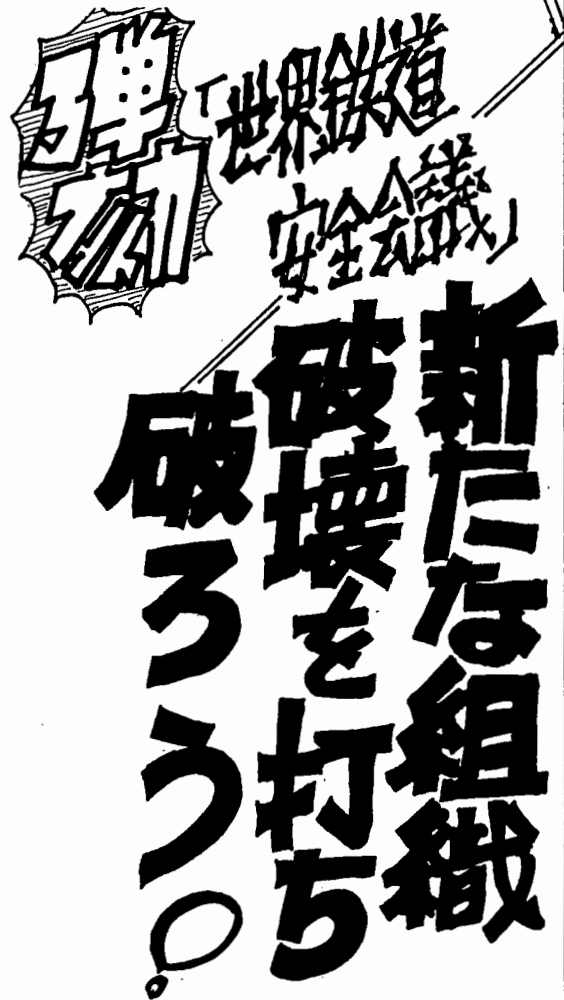
〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.11.2 No. 3302

「動労千葉・国労があるから事故が減らない?!

「肉争の高揚を恐れる」 組織破壊を告げる革マル



JR東労組(革マル松崎)が危機のりきり策として、JR当局と結託して開催した「世界鉄道安全会議」(十月三十日から十一月一日)は、「安全」問題とは名ばかりの新たな組織破壊(動労千葉、国労破壊)を号令するための、おぞましい会議としてやられ、JR東労組以外の全ての労組の批判と怒りのマトとなっている。しかも、主たる出席者は、十月二十九

「安全」を売りもの、「組織破壊」を告げる革マル

JR総連革マルは、「世界安全会議」なるものが運転保安確立や安全確保の為にという目的と遠もゆかりもないものであることを随所で自己暴露している。

日開かれた「天皇即位奉祝式典」に参加した財界や政府関係者である。そもそも、この「会議」なるものは、ITF(国際運輸労連)からさえ一蹴せられ、各国労組は、つぎつぎと不参加を表明、動労千葉の弾劾、国労や鉄産労からさえ抗議、拒否され結局JR東労組とJR東日本当局の「裸おどり」という惨状を露呈した。

いわく、「この会議を心よく思わないものたちの妨害、破壊が予想される。鉄道妨害を煽るマスコミもあり様々な妨害が予想されるので警戒体制を強化せよ。九月二八日

八街駅で発車の際何者かが投石した。他」さらに、十月二五日発のJR総連企画、組織局情報NO44では、「安全問題は、会社にとって商品(価値)を高めるために重要な課題、労使の対立による事故の責任転嫁が事故のインペイトなった。労使を越えて(労使一体)こそ安全確保ができる」「国労、鉄産労等、妨害とケチつけを行い、敵対している。この会議を破壊しようとするあらゆる妨害と対決しよう」

ここには、分割・民営化以降激増している重大事故と、そこで多くの職場の仲間と乗客が無残に殺されていることへの「痛み」や「反省」の一面から見られないのである。殺人的な労働強化と営利優先、「事故処分」に

対してまで露骨な組合差別をもちこみ息もつまるような状態にまで労働者を追い詰めていること、他方会社側は、何一つの責任をとらない異常な無責任体制の中で運転保安は、当局自から「非常事態宣言」を出さなければならぬほど危機的状態におかれているのである。それを、逆手にとって、革マル松崎は「動労千葉、国労、鉄産労があるから事故がなくなるなら、一企業・一組合を急げ」「労使対立が事故のもと、労使一体の道こそ安全を守る」と煽り新たな組織破壊にかりたてようとい

の労働者の不信と怒りにつまれているのだ。革マルは、このピンチを脱つるために闘う人々への弾圧をこい願い「列車妨害を警戒せよ」と叫び、沿線警備に組合員を動員し、労働者・人民の総決起に敵対している。反労働者集団・JR総連解体・一掃のためにも十一月総決起をやりきろうではないか。

死であがいている。一企業一組合路線が破産的状态のなかで、このままでは当局から「用済」「使いものにならない」と見捨てられののではないかといい危機感をつのらせ、戦せんきょうきょうとしている。そこに加え、JR西日本、JR東海等では、JR当局による革マル排除が公然と始まっているのである。彼らの並々ならぬ危機感をしっかりと見すえ、JR総連解体の闘いをよりつよめなければならぬ。